

Part III Branch Activities(<special issue>75 YEARS OF THE JAPAN WELDING SOCIETY)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/11782

北 陸 支 部

1. はじめに

北陸支部は、昭和36年11月、富山、石川、福井の北陸3県の関係者が協力して北陸支部として発足した。

北陸支部の活動としては、総会、研究発表会、特別講演、工場見学会等ほぼ定例的に開催してきた。

支部の事業年度は毎年2月1日に始まり翌年1月末日で終わるが、年間の活動方針は、総会に先だって開催される幹事会、商議員会において決定され、毎年6月以降に開催される総会において承認される。総会時には特別講演を行い、見学会等も開催している。

特別講演は、総会以外にも、例年12月頃にも研究発表会、見学会等とともに開催している。

また、この25年間には秋季全国大会を昭和53年に福井大学、昭和62年に金沢大学、平成8年には富山大学にて開催された。

北陸支部は、その会員数が、昭和52年8月末で賛助員20口、正員47人、平成11年6月末で9社16口、正員62名であり、支部の中では最も会員の少ない支部のひとつであるが、会員及び関連諸団体と個人の方々の精力的なご支援、ご協力により、別表の通り、活気のある活動を行っている。

北陸支部地域は溶接関連の産業が少ないが、富山、石川、福井の各県の工業技術センター(または工業試験場)で、学会と産業界との中間的視野で開発研究を行っている。具体的には福井県工技センターでは、同県の基幹産業であるめがねフレームの生産高が国内一であることから、Tiのロウ付けに関する開発研究が多く、それに関する研究発表や特別講演も多い。一方、富山県は非鉄金属を中心とした工業材料の生産が盛んであり、特にアルミ

産業が多いことで知られている。したがって、電子ビームやレーザービームを使用したアルミニウム合金の溶接法に関する研究発表が多い。また橋梁など溶接鋼構造物も多く生産しており、それに関する講演も多く企画されている。石川県は建設機械産業等で溶接技術が駆使されているが、学会に対する関心は低調である。

一方、教育に関しては北陸支部内で溶接関連の科目を独立の講義科目として採用している大学、専門学校、工業高校は見あたらない。そこで特別講演会を機械系の学生向けに企画し、積極的に聴講するよう配慮している。

なお、この25年間の記録には一部欠けているが、歴代役員、支部活動一覧、収支決算を、それぞれ表1、表2、表3に示した。

支 部 役 員

昭和53・54年度

支部長 木村 博 (福井大)		
商議員		
新家 広 (大同工業)	井町 正樹 (福井大)	上田 益造 (金沢大学)
梅原弥三男 (佐藤工業)	糀谷 二郎 (小松製作所)	光部正二 (福井機械)
小河 弘 (金沢工業大)	竹下 俊男 (福井工高専)	坪川正和 (福井大)
豊原 富夫 (日本海重工)	成松 弥六 (金沢大・名誉教授)	蓮谷 謙二 (石川工業試験場)
増永 一三 (福井県工試)	八重崎 信好 (不二越)	山毛利清治 (佐藤鉄工)

昭和55・56年度

支部長 上田 益造 (金沢大学)		
商議員		
井町 正樹 (福井大)	打尾 弥吉 (富山技術短大)	小河 弘 (金沢工業大)
金井 兼造 (福井工業大)	糀谷 二郎 (小松製作所・粟津)	宮越 孝二 (小松製作所・粟津)
白石 哲郎 (福井大)	竹下 俊男 (福井工高専)	時沢 貢 (富山大)
蓮谷 謙二 (石川工業試験場)	広瀬 幸雄 (金沢大)	深草 邦夫 (福井工高専)
沢田 一位 (福井工業試験場)	八重崎 信好 (不二越)	滝沢 博 (佐藤鉄工)
米谷 茂 (金沢大)		

昭和57・58年度

支部長 小河 弘 (金沢工業大学)		
商議員		
上田 益造 (元・金沢大)	山本 俊作 (富山福野高技)	時沢 貢 (富山大)
宮越 孝二 (小松製作所・粟津)	蓮谷 謙二 (石川工業試験場)	井町 正樹 (福井大)
定池 幹夫 (福井工業試験場)	松下 衛 (石川職業訓練校)	打尾 弥吉 (元・福井技術短大)
岩尾 秀規 (福井鉄工)	金井 兼造 (福井工業大)	光部 正二 (福井機械)
滝沢 博 (佐藤鉄工)	竹下 俊男 (福井工高専)	塚本 順佑 (川田工業)
広瀬 幸雄 (金沢大)	八重崎 信好 (不二越)	吉田 栄 (福井工業試験場)
米谷 茂 (金沢大)		

昭和 59・60 年度

支部長 時次 貢 (富山大学)					
商議員					
上田 益造	(溶接技術検定委)	松下 衛	(富山技能開発センター)	滝沢 博	(佐藤鉄工)
飯田 征功	(小松製作所 粟津)	蓮谷 謙二	(石川工業試験場)	井町 正樹	(福井大)
定池 幹夫	(福井工業試験場)	塚本 順佑	(川田工業)	米谷 茂	(金沢大)
岩尾 秀規	(福井鉄工)	小河 弘	(金沢工業大)	金井 兼造	(福井工業大)
光部 正二	(福井機械)	末延 裕	(小松製作所 氷見)	竹下 俊男	(福井工高専)
西野 浩	(福井工業試験場)	広瀬 幸雄	(金沢大)	村松 俊二	(高田重工)
八重崎 信好	(不二越)	山本 俊作	(富山職業訓練センター)		

昭和 61・62 年度

支部長 米谷 茂 (金沢大学)					
商議員					
飯田 征功	(小松製作所)	蓮谷 謙二	(石川工業試験場)	村松 俊二	(高田重工)
井町 正樹	(福井大)	定池 幹夫	(福井工技センター)	時次 貢	(富山大)
滝沢 博	(佐藤鉄工)	小河 弘※1	(金沢工業大)	上田 益造	(溶接技術検定委)
広瀬 幸雄	(金沢大)	細川 一夫	(石川工高専)	鈴木 孝則	(川田工業)
能登谷 久公	(富山大)	八重崎 信好	(不二越)	深草 邦夫	(福井工高専)
岩尾 秀規	(福井鉄工)	村上 悌二郎	(福井機械)	松下 衛※1	(富山技能開発センター)
石黒 隆義※2	(富山大)				

※1……61年度のみ ※2……62年度のみ

昭和 63・平成元年度

支部長 米谷 茂 (金沢大学)					
商議員					
飯田 征功	(小松製作所)	井町 正樹	(福井大)	石黒 隆義	(富山大)
蓮谷 謙二	(石川工業試験場)	能登谷 久公	(富山大)	定池 幹夫	(福井工技センター)
渡辺 滉	(川田工業)	村松 俊二	(高田重工)	上田 益造	(溶接技術検定委)
浜崎 正信	(富山工技センター)	広瀬 幸雄	(金沢大)	細川 一夫	(石川工高専)
山崎 雅弘	(小松製作所)	時次 貢	(富山大)	滝沢 博	(佐藤鉄工)
八重崎 信好	(不二越)	深草 邦夫	(福井工高専)	岩尾 秀規	(福井鉄工)
村上 悌二郎	(福井機械)				

平成 2・3 年度

支部長 井町 正樹 (福井大)					
商議員					
飯田 征功	(小松製作所)	藤井 裕博	(川田工業)	時澤 貢	(富山大)
石黒 隆義	(富山大)	村松 俊二	(高田重工)	能登谷 久公	(富山大)
深草 邦夫	(福井工高専)	上田 益造	(元・金沢大)	滝沢 博	(佐藤鉄工)
村上 悌二郎	(福井機械)	広瀬 幸雄	(金沢大)	八重崎 信好	(不二越)
定池 幹夫	(福井県労政技能課)	細川 一夫	(石川工高専)	富田 正吾	(富山県工技センター)
吉川 嘉雄	(福井工技センター)	山崎 雅弘	(小松製作所)	竹内 貞雄	(福井県立短大)

平成4・5年度

支部長 井町 正樹 (福井大)					
商議員					
細川 一夫	(石川工高専)	村上 悌二郎	(福井機械)	滝沢 博	(佐藤鉄工)
石黒 隆義	(富山大)	藤井 裕博	(川田工業)	能登谷 久公	(富山大)
深草 邦夫	(福井工高専)	村松 俊二	(住金高田重工)	小山 高一	(日立製作所)
吉川 嘉雄	(福井県工技シカ)	上田 益造	(元・金沢大)	佐々木 一郎	(コマツ)
定池 幹夫	(福井県労政技能課)	小倉 信和	(富山県立大)	富田 正吾	(富山県工技シカ)

平成6・7年度

支部長 石黒 隆義 (富山大)					
商議員					
細川 一夫	(石川工高専)	村松 俊二	(住金高田重工)	佐々木 一郎	(コマツ)
能登谷 久公	(富山大)	井町 正樹	(福井大)	富田 正吾	(富山県工技シカ)
下山 仁一	(福井工大)	上田 益造	(元・金沢大)	竹下 晋正	(福井大)
柴田 政敏	(川田工業)	小倉 信和	(富山県立大)		
滝沢 博	(佐藤鉄工)	深草 邦夫	(福井工高専)		
田中 潔	(富山県立大)	定池 幹夫	(福井県工技シカ)		

平成8・9年度

支部長 能登谷 久公 (富山大学)					
商議員					
北川 和夫	(金沢大学)	村松 俊二	(住友高田重工)	佐々木 一郎	(コマツ)
下山 仁一	(福井工大)	井町 正樹	(福井大)	富田 正吾	(富山県工技シカ)
柴田 政敏	(川田工業)	上田 益造	(元・金沢大)	竹下 晋正	(福井大)
滝沢 博	(佐藤鉄工)	深草 邦夫	(元・福井工高専)		
田中 潔	(富山県立大)	定池 幹夫	(福井県工技シカ)		

平成10・11年度

支部長 北川 和夫 (金沢大学)					
商議員					
田中 潔	(富山県立大)	井町 正樹	(福井大)	竹下 晋正	(福井大)
細川 一夫	(石川工高専)	定池 幹夫	(福井県工技シカ)	上田 益造	(元・金沢大)
斉藤 喜一	(福井工大)	富田 正吾	(富山県工技シカ)		
佐々木 一郎	(コマツ粟津工場)	森井 一茂	(川田工業)		
能登谷 久公	(富山大)	滝沢 博	(佐藤鉄工)		

平成12・13年度

支部長 北川 和夫 (金沢大学)					
商議員					
田中 潔	(富山県大)	井町 正樹	(福井大)	村田 正	(佐藤鉄工)
細川 一夫	(石川工高専)	池田 吉生	(コマツ粟津工場)	竹下 晋正	(福井大)
斉藤 喜一	(福井工大)	定池 幹夫	(福井県工技シカ)	上田 益造	(元・金沢大)
能登谷 久公	(富山大)	富田 正吾	(富山県工技シカ)		
宮島 力	(住金工業)	森井 一茂	(川田工業)		

北陸支部活動一覽表

年 度	行 事
S 5 1 年 (1976 年)	◎S51.11.17 総会 ◎S51.11.17 特別講演「日本人の歯を護ったお歯黒の歴史と科学」(山賀) 特別講演「溶接作業の省力化と機材」(叶野) 研究発表; 8 件
S 5 2 年 (1977 年)	◎S52.7.26 講演会「最近のろう接について」(岡本) 「最近のセルロイドとアセテートの相違点について」(近藤) ◎S52.11.16 総会 ◎S52.11.16 特別講演「電子顕微鏡による金属疲労の微視的研究」(粟谷) 研究発表; 10 件
S 5 3 年 (1978 年)	◎S53.10.3~10.6 秋季全国大会開催 ◎S53.10.5 総会 特別講演「お歯黒の習慣とその科学」(山賀) ◎S53.10.6 見学会(福井県陶芸村一和紙村一漆器村) ◎S53.10.3~10.5 研究発表; 200 余件
S 5 4 年 (1979 年)	◎S54.7.19 特別講演「最近の炭酸ガスとマグ溶接法について」(西口) ◎S54.12.24 総会 ◎S54.12.24 研究発表; 6 件
S 5 5 年 (1980 年)	◎S55.9.27 総会 ◎S55.9.27 特別講演「産業用ロボットによるアーク溶接自動化システム」(萩尾) ◎S55.12.10 特別講演「アルミニウム合金の溶接性と問題点」(向井) ◎S55.12.24 特別講演「鋼構造物の最近の溶接施工について」(峰久) 研究発表; 5 件
S 5 6 年 (1981 年)	◎S56.6.27 総会 ◎S56.6.27 特別講演「溶接構造物の事故例について」(国広) ◎S56.11.7 特別講演「ステンレス鋼の溶接と留意点～主として耐食性について～」(向井) ◎S56.12.22 映写会(1)「溶接」(2)「電機溶接機器」(3)「非被裏試験」 および 研究発表; 5 件
S 5 7 年 (1982 年)	◎S57.6.26 特別講演「センサ付ロボット溶接について」(磯谷) ◎S57.6.26 小松製作所 栗津工場 見学会 ◎S57.12.11 特別講演「磁化式応力測定器の開発と溶接残留応力測定への応用」(北川) 研究発表; 5 件
S 5 8 年 (1983 年)	◎S58.7.9 総会 ◎S58.7.9 特別講演(鈴木(春)) ◎S58.12.3 特別講演(高山)
S 5 9 年 (1984 年)	◎S59.7.7 総会 ◎S59.7.7 特別講演「溶接工場における施工管理について」(新開) ◎S59.7.7 (株)トヤマキカイ見学会 ◎S57.12.7 特別講演「溶接残留応力と継手強度に及ぼす影響」(向井) および映写会(1)「ひずみゲージを用いた応力測定関係」(2)「溶接継手の強度試験関係」 研究発表; 3 件
S 6 0 年 (1985 年)	◎S60.7.11 総会 ◎S60.7.11 特別講演「本四連絡橋の溶接について」(塚本) および映写会「橋梁の工場製作」 ◎S60.12.14 特別講演「溶接ロボットの現状と展望」(鈴木(和)) 研究発表; 3 件
S 6 1 年 (1986 年)	◎S61.7.11 総会 ◎S61.7.11 特別講演「溶接の残留応力について」(米谷) ◎S61.12.5 特別講演「構造材料の疲労について」(西谷) 研究発表; 5 件
S 6 2 年 (1987 年)	◎S62.7.10 総会 ◎S62.7.10 特別講演「溶接残留応力下での疲労亀裂進展挙動の研究」(石黒) ◎S62.10.12~14 全国大会 研究発表

年 度	行 事
平成元年 (1989)	H 元年 3.13 ◎講習会「最近のアーキ溶接機、プラズマ切断の現状」(山本) ◎特別講演「特殊用途材料における溶接・接合技術の動向」(松田) H 元年 7.14 ◎総会 ◎特別講演会「レーザー切断について」(山田) H 元年 9.21 ◎特別講演会「電子部品機器における接続実装技術とマイクロ接合技術」(仲田) H 元年 12.14 ◎研究発表会 4件 ◎特別講演会「情報処理装置における機械技術の現状と将来」(磯部)
平成 2 年 (1990)	H2. 3. 8 ◎特別講演会「最近の材料複合化と接合」(松田) H2.6.29 ◎総会 ◎特別講演会「FRP の構造と問題点について」(堀江) ◎見学会：FRP 工業㈱ 工場見学 H2.9.21 ◎技術者交流セミナー 「マイクロエレクトロニクスの現状を語る」 講演 5 件 (石川県工業試験場) H2.11.13 ◎講演会「鋼橋現状溶接の現況報告」(藤井、清水、早川) ◎見学会：川田工業㈱ 富山工場見学 H2.12.1 ◎研究発表会 (1)低融点合金と溶融ポリマーの接着界面現象 (井町、内藤、谷口) (2)プラズマ溶射皮膜の特質 (岩佐) (3)レザー処理による鋼材のワレについて (石黒、杉本) ◎特別講演会「鋼構造物の溶接管理」(中村) H2.12.4 ◎講演会「厚板の大入熱 1 ラン SAW 溶接」(阪口) 他 6 件 H2.12.5 ◎講演会「CADM による自動設計・製図システム」(北川) 他 1 件 ◎見学会：フクモク工業㈱ 工場見学
平成 3 年 (1991)	H3.3.25 ◎技術講習会「溶接ロボット技術講習会」講演 3 件 H 3. 6. 21 ◎総会 ◎特別講演会「渦電流法による金属の亀裂及び欠陥の検出」(北川) H3.10.25 ◎講演会並びに工場見学 ・講演「眼鏡フレームの作り方」(村井) ・工場見学：㈱シグマ 眼鏡工場 H3.11.29 ◎研究発表会 (1)「ニッケル含有導電性複合材料における成分の相互作用」(張、井町) (2)「TIG 法による Al-Cu 合金の表面硬化肉盛の研究」(富田) (3)「実施行における小型可搬式溶接ロボットの適用例とその評価」(山崎) ◎特別講演「鉄鋼製品へのアーキ溶接ロボットの適用」(中山、田中) ◎福井県工業技術センター見学

年 度	行 事
平成4年 (1992)	H4.6.26 ◎総会 ◎特別講演会「ある技術者の英国留学記・余談」(石田) ◎見学会：石川県工業試験場新設備の見学 H4.7.24 ◎講演会「志賀原子力発電所の概要」(前田) ◎見学会：発電所建設現場見学 H4.9.25 ◎接合加工技術講習会「アーク溶接技術の現状と動向」 ・「インバータ・アーク溶接機の理解と実践的使い方」(原田) ・「プラズマ・アーク現象の基礎と産業界への応用」(牛尾) H4.11.27 ◎研究発表会①「摩擦肉盛圧接の研究」－アルミニウム材の場合－(深草) ②「界面張力の解析」(井町、横井) ③「溶射皮膜の評価方法について」(富田) ◎特別講演会「ゲルマンボンベ破裂事故とボーイングジャンボジェット機墜落事故について」(小倉)
平成5年 (1993)	H5.7.2 ◎総会 ◎特別講演会「自動車ボディーの統合型フレキシブル溶接組付システム」(柴田) H5.10.28 ◎講演会「建設機械溶接構造物の生産における溶接自動化技術」(高橋) ◎見学会：「溶接ロボットによる組立ライン等の見学」コマツ、粟津工場 H5.11.26 ◎研究発表会 (1)「界面張力の解析②」(井町) (2)「マルテンサイト系ステンレス鋼の応力腐食割れに関する研究」(矢地) (3)「CO ₂ レーザによるアルミニウム合金表面への鉄粉末の合金化」(富田) (4)「高出力 YAG レーザ溶接におけるビーム伝送メカニズム」(石出、松本、下山) ◎特別講演会「30年の研究生活を振り返って」(佐藤) ◎見学会：「研究設備の見学」富山工業技術センター
平成6年 (1994)	H6.7.1 ◎総会 ◎特別講演会「新建築構造用圧延鋼材と溶接」(石黒) H6.11.4 ◎講演会「品質工学の活用例」(松住) ◎見学会：富山県工業技術センター 機械電子研究所 H6.12.2 ◎研究発表会 (1)「超音波による異材接合」(井町) (2)「レーザによるアルミニウム合金表面の高 Si 合金化の研究」(富田) ◎特別講演会「高度化を目指す溶接技術の動向」(西) ◎見学会：富山県立大学 研究室
平成7年 (1995)	H7.7.17 ◎総会 ◎特別講演会「墜落したジャンボ機の圧力隔壁のリベット継手の疲労試験」(小倉) H7.11.9 ◎全国大会第1回実行委員会

年 度	行 事
平成 8 年 (1996)	H8.2.2 ◎全国大会第 2 回実行委員会 H8.3.15 ◎特別講演会「アルミニウム合金の表面膜硬化技術」(松田) H8.10.1~4 ◎秋季全国大会開催(富山大学)見学会(YKK) H8.10.11 ◎全国大会第 3 回実行委員会
平成 9 年 (1997)	H9.3.11 ◎第 2 回幹事会、商議員会 H9.7.17 ◎第 1 回幹事会、商議員会 ◎特別講演会「阪神大震災時の鋼構造物損傷事例と補修について」(西尾) H9.11.27 ◎研究発表会 (1)「Ni-Al 系溶射したアルミニウム合金のレーザによる表面合金化」(富田) (2)「歯付き裏当て材」使用について(定池) (3)「厚板アルミニウム合金の電子ビーム溶接一性突合わせ継手の組織および機械的性質」(佐々木) ◎特別講習会「橋梁溶接継手をめぐる最近の動向」(森田)
平成 10 年 (1998)	H10.3.12 ◎第 2 回幹事会、商議員会 H10.7.16 ◎特別講演会「鉄鋼溶接部の破壊」(田中) ◎第 1 回幹事会、商議員会 ◎総会 H10.11.26 ◎第 2 回幹事会、商議員会 ◎研究発表会 (1)電子ビーム溶融法で Cu を添加した Al-Mg 合金材の機械的性質および耐食性(坂本) (2)アルミニウム合金へのレーザ溶接摘要事例(杉本) (3)電流特性値による抵抗ろう接継手の強度評価(竹下) ◎特別講演「鉄鋼の溶接」(大久保)
平成 11 年 (1999)	H11.7.8 ◎特別講演「レーザビームを利用した金属表面改質技術」(富田) ◎総会 H11.11.25 ◎研究発表会 (1)溶融接着における挙動の解析(井町) (2)パルス通電加圧焼結法によるアルミニウムと炭素鋼の焼結結合(富田) ◎特別講演「鋼材切断技術の変遷と今後の展望」(奥村)
平成 12 年 (2000)	H12.7.6 ◎第 1 回幹事会、商議員会 ◎総会 ◎特別講演会「完全溶け込み溶接用歯付き裏当て金の開発」(依田) H12.11.22 ◎第 2 回幹事会、商議員会 ◎研究発表会 (1)「熱処理型アルミニウム合金電子ビーム溶接性」(富田) (2)「積層型ろう材によるチタン合金の抵抗ろう接」(竹下) ◎特別講演「軽金属材料の溶接技術の現状と将来動向」(橋本) ◎見学会(富山県工業技術試験センター中央研究所)

予 算 の 推 移

年度	収 入	支 出
平成元年	102,280	104,412
2	100,284	99,137
3	101,467	100,004
4	101,600	101,057
5	100,625	92,090
6	108,642	108,019
7	100,960	100,030
8	742,081	741,160
9	100,967	99,400
10	357,973	356,832
11	101,246	96,833

(予算は繰越金を含む)

予 算 の 推 移

年度	収 入	支 出	備 考
昭和51年	143,319	132,690	
52	100,629	98,675	
53	515,818	473,921	全国大会開催
54	163,091	141,690	
55	136,435	117,591	
56	118,844	74,885	
57	148,646	89,746	
58	200,219	169,430	
59	131,859	124,551	
60	107,917	146,974	(繰越金△39,057)
61	101,005	100,500	
62	110,417	110,150	
63			

(予算は繰越金を含む)

関 西 支 部

1. まえがき

関西支部は幸いなことに、世界的な溶接研究のセンターである大阪大学があり、人材には非常に恵まれている。このため、関西支部の支部長は伝統的に大阪大学と民間企業が交互にその任を果たし受け継いできている。また、幹事長は大阪大学の先生が歴任されて、実際の支部活動を引張ってこられている。支部の会員も約1000名と多く、極めて活発な活動が行われてきた。

2. 関西支部の活動推移

表1-1から表1-3に関西支部活動の一覧表を示す。関西支部の主な活動は古くからシンポジウム、技術セッション、見学会の3本柱で運営されているが、それぞれ

の行事を担当する主担当者として3名程度の担当者が幹事の中から選ばれ、任されて運営してきた。

シンポジウムは学術的に興味を引く今日的なテーマあるいはその時代の趨勢・ニーズにマッチした内容に的を絞って、技術講演を中心としてディスカッションを1日で行うもので、多数の参加を集めてきた関西支部のメインイベントである。昭和50年・60年代は「構造物の安全性」、「自動化・ロボット化」を中心としたテーマ、平成になってからは「溶接の脱技能化・省力化・コストダウン」を中心としたテーマと時代の要請に応じた意義のあるテーマをこなしてきたと感じる。

見学会はその時々話題となる場所を選んで行うので、比較のおもしろい見学会が多い。昭和50年・60年代は「本四架橋」の建設現場の見学が多く、「原子力発電所」の見学会も比較的多い。

技術セッションは、当初、関西支部会員の技術レベルの向上を目的とした技術講習会であったが、平成3年からは技術講習会に加えて工場見学を同日に行うようになった。

3. 関西支部の人事、予算の推移

表2および表3にそれぞれ、人事および予算の推移を示す。表2では、紙面の都合で常任幹事までしか記載できなかったが、常任幹事以外に20~24名の幹事が活躍してきた。

予算については、主な収入・支出は参加者が多く、参加費が比較的高いシンポジウムと技術セッションの占める比率が高い。最近では年間で、それぞれの予算が人体100万円ずつぐらいになっている。

4. 特記事項

特記事項については、溶接学会の秋季全国大会の懇親会について報告する。

秋季全国大会も関西支部で何回か開催されたが、一番新しくは、昭和60年に大阪工業大学で開催された。懇親会は、なるべく質素にして、懇親に災を上げるように、費用は参加費・本部補助金並びに支部負担金のみでまかなうこと、名誉員・特別員の方々全員に招待状を送り、多数参加していただくことの2点に留意した。その結果、名誉員・特別員14名、名古屋からの国際協力事業団の各国溶接技術研修員含めて、合計約160名の多数の参加者を得て、盛会裡に終えることができた。また、会場を提供していただいた大阪工業大学の御好意もあり、当初予算よりも支部負担金を大幅に軽減できたことも、なつかしい思い出の一つといえる。

(原田 章二)